

慢性の片頭痛

何事も初めてのことには、こころは騒ぐ。だが、同じことが繰り返され、やがては慣れる。それが当たり前になる。病気も同じだ。

38歳のA子さん。約1週間前から、後頭部が締め付けるように痛む。だんだんひどくなった。もともと頭痛持ちだが、いつもと痛むところが違う。痛みかたも違う。ひょっとして、くも膜下出血？それとも脳腫瘍かと、まるでパニックである。

だが、そんな命に関わるような病気が原因ではない。最近、パソコンに向かう仕事が多かった。寒い日が続いた。「首こり」がひどくなった。その首こりが原因の、いわゆる頸性頭痛^{けいせいとうつう}である。

今回のテーマは、その頸性頭痛ではない。A子さんの持病の、頭痛のほうである。話をよく聞いてみると、どうやら片頭痛のようだ。

20年以上前から、月に一度は、頭がズキンズキンと痛み、寝込む。光がまぶし

く、吐き気がして、時には嘔吐^{おうと}する。すっかり元に戻るまで、3、4日はかかるという。それでいて、これまで医者^みに診てもらったことは一度もない。市販薬でやり過ごしていたというから、驚くではないか。

A子さんの頭痛は、慢性である。命に関わる病気ではないと分かっている。つらいし苦しいが一時のことだ、と、だんだん病気にも慣れてしまう。そのうち、諦めてしまった。

同じような患者さんは、少なくないのかも。ちなみに、日本での片頭痛の年間有病率は5〜10%という。30、40代の若い女性では、その倍近い。計算では、少なくとも10人に1人は、片頭痛の患者さんということになる。

片頭痛は、原因も治療法も分かっているほどの病気である。元から治せないまでも、特効薬で痛みを軽減できる。頭痛を誘発する要因が分かれば予防だって可能だ。諦めるのもつたいない。

（石黒修三||いしぐろクリニック・脳神経

外科専門医…11/24 北國新聞掲載）